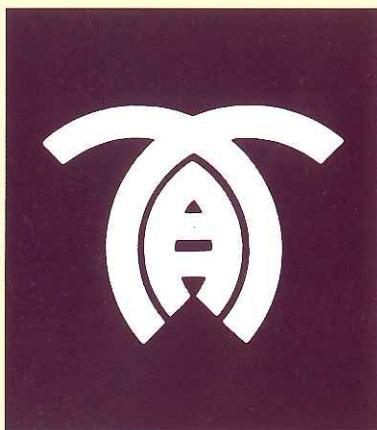


海を越えて

有田・マイセン
姉妹都市10年のあゆみ



冠火喰鳥



有田町町章



マイセン市市章

姉妹都市10周年記念誌

はじめに

有田とマイセンは、日本とヨーロッパでの磁器発祥の地であります。17世紀中期以来磁器によって結ばれた両者の絆は、1979年2月9日の姉妹都市提携調印によって、より強固なものになりました。本年、提携10周年の記念行事を開催するにあたり、過去の経緯を記録し、将来にわたって両者の協力関係が更に深まり、引いては両国の友好関係に寄与することを念願し記念誌を発刊するものであります。

1989年4月



マイセン焼
1725～1730年頃
ドレスデン国立美術館蔵

目 次

あいさつ	2
祝辞	4
有田とマイセンの出会い	7
マイセンまで	8
有田焼とマイセン焼	10
有田とマイセンの交流	12
姉妹都市マイセン	26
マイセンの思いで	32
マイセンを訪れた人	36
年表	38



有田焼
1690～1710年代
ドレスデン国立美術館蔵

題字 有田町名誉町民 岩尾新一



有田町長 青木類次

わが有田町には『マイセンの森』、ドイツ民主共和国（DDR）マイセン市には『有田の森』があります。それぞれ素晴らしい公園の一角に両市町、両国にゆかりのある木々が植えられ、来訪者をなごませています。二つの森に故鍋島直紹先生のマイセン磁器製のレリーフの顕彰碑が建立されています。これは有田町、マイセン市の姉妹都市提携のシンボルといえます。

今をさる10年前、1979年2月9日、有田町とマイセン市は、磁器を強い絆として姉妹都市となりました。直接この仲を取りもった方が鍋島先生で、当時参議院議員日本DDR友好議員連盟会長であり、父君の時代からDDRとは親交があり、先方のDDR日本友好議員連盟会長ハанс・モドロウ氏とは旧知の間柄で、この話は円滑に進みました。勿論、300年前から有田焼とマイセン焼の関係は切っても切れないもので、姉妹都市提携後は又新しい友好交流がなされてきています。10周年を迎えるこの交流の歴史をここに記念誌として発行することになりました。交流の内容については本誌をご覧ください。『平和なくして文化はない』～世界平和の中で両市町、両国の末永い友好と発展を祈念して発刊のごあいさつといたします。



有田の町並



マイセン市長 クラウス・ドイマー

1989年2月9日、私達はマイセンと有田町の姉妹都市提携調印10周年を迎えます。陶磁器の町マイセンと有田はこの10年間、友好の絆によって固く結ばれてきました。地理的にも大きな隔たりがあるにもかかわらず、『日出國』の町有田は、両都市の様々な交流活動により、マイセン市民にとって信頼できるパートナーとなり、良き友となったのです。

例え1985年には、マイセンをはじめDDRの各都市で『有田展』が開催されました。この展覧会は、日本の陶磁器芸術の伝統的な作品だけでなく、たくさんの熱心な見学者に姉妹都市有田の日常生活、有田町民の暮らしぶりを紹介するものもありました。

1988年4月には、マイセン市議会において、姉妹都市提携の成立と発展のために果たした有田町長の功績を称えマイセン市名誉市民を授与することが、満場一致で決定されました。青木類次町長は、その活動を通じて両国の協力関係を促進し、不動のものにしました。1988年5月25日、マイセン市庁舎において青木類次町長に名誉市民の称号を送りましたことは、私にとって大きな喜びがありました。有田町にある『マイセンの森』とマイセンにある『有田の森』は、私達両国民の友好の絆と平和への愛を表すしです。過去の苦い体験は私達に世界平和維持のためにあらゆることを行うということを教えてくれました。

これからもこのふたつの町のパートナーシップが平和維持に確実に貢献していくことと思います。

最後に、私達ふたつの町、二つの国友好関係がこれからも相互理解の様々な可能性によってますます深められていいくこと、マイセンと有田町の姉妹都市関係が育ち、繁栄していくこと、さらに平和維持と軍縮への共通の努力が、ふたつの町の友好関係の本質的な基盤としてたゆまず進められていくことを、ここに確信をもって申し上げます。



マイセンの町並

祝辭



佐賀県知事
香月 熊雄



佐賀県議会議長
小原 嘉登次

佐賀県有田町とドイツ民主共和国マイセン市との姉妹都市提携10周年を迎えるに当たり、心からお祝い申し上げます。

有田町とマイセン市は、日本とヨーロッパにおける陶磁器発祥の地であり、今日、高級磁器の主要産地として広く世界に知られています。このような両都市の姉妹都市提携は、18世紀初頭における磁器生産の技術交流を踏まえたものであり、また、県内では最初に締結されたことによって、各方面から大きな注目と期待を集めたところです。昭和54年2月の姉妹都市提携後は、日本における『マイセン磁器とドレスデンの古伊万里名品展』や、DDRにおける『日本有田の陶芸ならびに名窯展』の開催、有田町長はじめ関係者の訪独や、DDR国家評議会議長の来県など、やきものを核とした、文化・人物交流が活発に行われています。

社会体制の異なる両都市の、地域の特性を活かした市民レベルでの交流事業は地域の活性化に結びついた国際交流の優れたモデルケースとして紹介されることも多く、全国の姉妹・友好都市交流の中でもひとときわ高い評価を得ております。これもひとえに、有田町長、マイセン市長はじめ、関係者の皆様方の御努力の賜物であり、衷心より敬意を表する次第です。

現在、『国際化』は、時代の大きな潮流であり、国際化の推進は県はもちろん市町村にとっても重要な課題としてクローズアップされており、積極的な取組が必要となってきています。そうした中で、県内の姉妹・友好都市提携は、6市町村7組となっております。どうか有田町並びにマイセン市におかれましては、10周年を契機として、更に広くかつ深みのある交流が活発に行われ、両都市の相互理解と相互発展が深められますよう期待いたしますとともに、関係者の皆様方の、今後益々のご活躍をお祈りいたします。

このたび、『有田・マイセン姉妹都市提携10周年記念誌』が刊行されるにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

佐賀県有田町とドイツ民主共和国マイセン市が昭和54年2月に姉妹都市の関係を結ばれてから、早や10年の歳月を数えるところとなりましたが、この間、両都市の友好関係が一段と深まりをみせてまいりましたことは、誠に意義深く御同慶にたえないところでございます。これはひとえに、姉妹都市の橋渡しに大変な御尽力を賜りました故鍋島直紹先生をはじめ、有田町長さん、両国関係者の皆様方の不断の御努力の賜物でございまして、ここに深甚なる敬意と感謝の意を表する次第でございます。

御承知のとおり、世界に名高い磁器産地有田町とマイセン市は、300年以上にわたる交易の歴史を有し、それぞれ独自の発展を遂げてまいりましたが、昭和50年に開催されたドレスデンの古伊万里の里帰り展が姉妹都市提携のきっかけとなったところでございます。この姉妹都市の提携以来、昭和58年に佐賀県政100年記念事業の一環として開催された『マイセン磁器とドレスデンの古伊万里名品展』、昭和60年にDDRで開催された『日本有田の陶芸並びに名窯展』さらには、両国関係者の相互訪問の活発化等、『やきもの』がとりもつ国際交流の進展は誠に目を見張るものがあり、有田町・マイセン市の両都市のみならず、我が国とドイツ民主共和国の友好親善・相互理解に大きな役割を果たすものと期待いたす次第でございます。

最後になりましたが、記念すべき10周年を契機に有田町並びにマイセン市の友好関係・国際交流が更に発展いたしますよう念願いたしますとともに、関係者の皆様方の今後ますますの御活躍、御健勝を心から祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。



有田町議会議長
川口 武彦



有田商工会議所名誉会頭
岩尾 新一

『やきもの』を通じて出会った、DDRマイセン市と有田が長い深い絆によって結ばれ、姉妹都市提携10周年を迎え、私達が共にその事をお祝いすることはたいへん嬉しいことあります。

その記念事業として、この度マイセン市と有田町のジョイント展が日本の各地で開催されますことは画期的なもので喜びにたえないところであります。お互いに数千キロを離れた両都市が手を携えた、同じ『やきもの』の道をひた走ることは奇しき因縁であります。それをきっかけに両都市の間に文化の交流が始まり、両都市の間に記念事業として『マイセンの森』『有田の森』が交互に建設され、その他教育の交流、人物の交流等さまざまの交流が進められてきました。又、1988年5月、有田町の訪問団がDDRを訪問した折り有田町長青木類次氏がマイセンの名誉市民に列せられる等、マイセンと有田が、そしてDDRと日本がお互いによきパートナーとして信頼しあえる理解者として相互関係が可能な限り深まっていき、平和のうちに推移していく事を願っております。これより先、有田のマイセンの森の菩提樹も一年一年大きくなり、美しい緑の葉を繁らせ香り高い匂いを放っていくことでしょうし、マイセンの有田の森の桜も毎年大きく美しい花を咲かせる事でしょう。これと同じように、両都市の人々が限りない幸せのうちに豊かで平和でありますよう心から願っております。

マイセン、有田の姉妹都市提携10周年記念をお祝いし、DDRと日本がますます繁栄することを念じてお祝いの言葉といたします。

マイセン市と姉妹都市提携が10年となり大変おめでたいことと思います。何と言ってもこの力となったのは焼物県知事と言われた鍋島直紹先生のお陰です。御父君直繩様は、ドレスデン近郊のターラント大学農学部に留学され、又先生が参議院・日本DDR友好議員連盟会長をされていたことがきっかけになったと思います。その後先生の意志をうけて有田からも多数の人が訪独いたしました。私自身の経験でも米国の友人から『世界一といわれているマイセンの陶磁器よりも有田焼が先輩と言う事実があるなら、もっと宣伝しマイセンと付き合ったらどうか』と言われたことを思いだします。遠くマイセンに『有田の森』と当地に『マイセンの森』が出来て鍋島先生の胸像が建ったことやら、有田の青木町長が名誉市民になったことも、関係の深さを思い出させます。今後有田・マイセン展を共同で主催することによって共に世界一流の評価をうけることは喜ばしいことです。

有田とマイセンの出会い



日本・DDR文化協会会长
鈴木治雄



駐日ドイツ民主共和国特命全権大使
マンフレット・シュミット

10年一昔と申しますが、有田町とマイセン市が姉妹都市となるための正式文書が交換されてからすでに10年の歳月が流れ、その間、両都市の間の交流は日々に拡大、深化し、双方の人的、物的交流が幅広くおこなわれていることは、私共、わが国とDDRの間の文化的交流の発展を念願しているものにとって、まことに喜びにたえないところであります。我が国とDDRの都市の間の、姉妹関係の設定につきましては、共に第2次世界大戦で、さきわめて、悲劇的な災害を被った、広島とドレスデンの間に話が進められているように聞いておりますが、正式文書の交換が完了しているものは、有田・マイセンを除いて他にはないものと承っております。有田とマイセンの間の交流は、今更申すまでもなく、すでに数百年の長い歴史によって裏づけられており、その間の両者の触れ合いによって、彼らの陶磁器芸術は相互に著しく発展いたしましたことは周知の事実であります。

私は平素から、優れた文化は常に国民的、民族的であるが、文化が国民的民族的であればあるほど、これは国境を越えて国際的に拡がり、諸国民が文化を通じて、相互に相手を知り合うことになり、これを契機として世界の平和が押し進められていくという考え方を持っております。有田とマイセンの関係は、この私の考えを実証するものとして、まことに興味深いものと感ずる次第です。

仄聞するところによりますと、有田町は、単にマイセンとの交流に止まらず、さらに、DDRとの交流を推進するため、ドレスデンのすぐれた芸術的、歴史的な建造物の模型を建設するという、壮大な計画に取り組んでいらっしゃるよう承っております。私は有田がまず、マイセンとの姉妹都市関係を設定され将来は他の分野においても、DDRとの間に幅広い交流の輪をひろげられようとしていることに、大きな敬意を表したいと存じます。私共、文化協会としてもよろばざながらご支援申し上げたいと存じます。

Manfred Schmitz

17世紀中頃 オランダ貿易にはじまる交流

有田とマイセンの結びつきは『やきもの』という産業の実態を通じて、両者各々に歴史の背景を背負いつつ出来上がった話で、その意味では、世界にあまり例を見ない画期的な出来事といえる。

かたやドイツ民主共和国（DDR）マイセンはいうまでもなく、ヨーロッパ磁器発祥の地で、270年の歴史を誇る。そしてかたや有田はことわるまでもなく日本磁器の原点であり、その歴史は370年と重く又長い。

この両者のかかわり合いは、17世紀中頃のオランダ貿易にはじまる。何千何万という大量の古伊万里や柿右衛門様式の古い有田磁器がオランダ東インド会社の船で、有田から伊万里、長崎経由ヨーロッパに運ばれて行く。

まちうけていたのは、今の東ドイツ領ドレスデン一帯（ザクセン）を支配する強力な王侯オーガスタ二世。この王の熱狂的ともいえる日本磁器蒐集欲がドレスデン近郊のマイセンに製陶を起こさせ柿右衛門様式の大量コピー、をなさしめる。1710年である。おりしも18世紀の前半ヨーロッパ全土を風靡した、シノアズリーの傾向にそって古伊万里・柿右衛門様式はヨーロッパの外の窯々にも伝播し、大小40に近い窯々で有田のデザインが模写された。

姉妹都市提携までの経過はいくつかの段階があった。



1970年7人のサムライが マイセンへ渡る

第1段階は、上記のような過去の歴史的交流を確認する意味で、有田側から窯元7人のサムライが有田町長の私的メッセージを携えて、1970年（昭和45年）8月末だ

正式国交のないドイツ民主共和国マイセン製陶所を訪問したことに始まる。

マイセンまで行けば、ドレスデンはすぐ目の前である。このドレスデン美術館の地下倉庫に膨大な数の古い伊万里・柿右衛門様式の壺が墨々とねむっている。ここで一行は度胆を抜かされた。この感動が第二段階へと執念をわかせた。

ドレスデンの古伊万里帰り展 を機に大きな進展をみせる

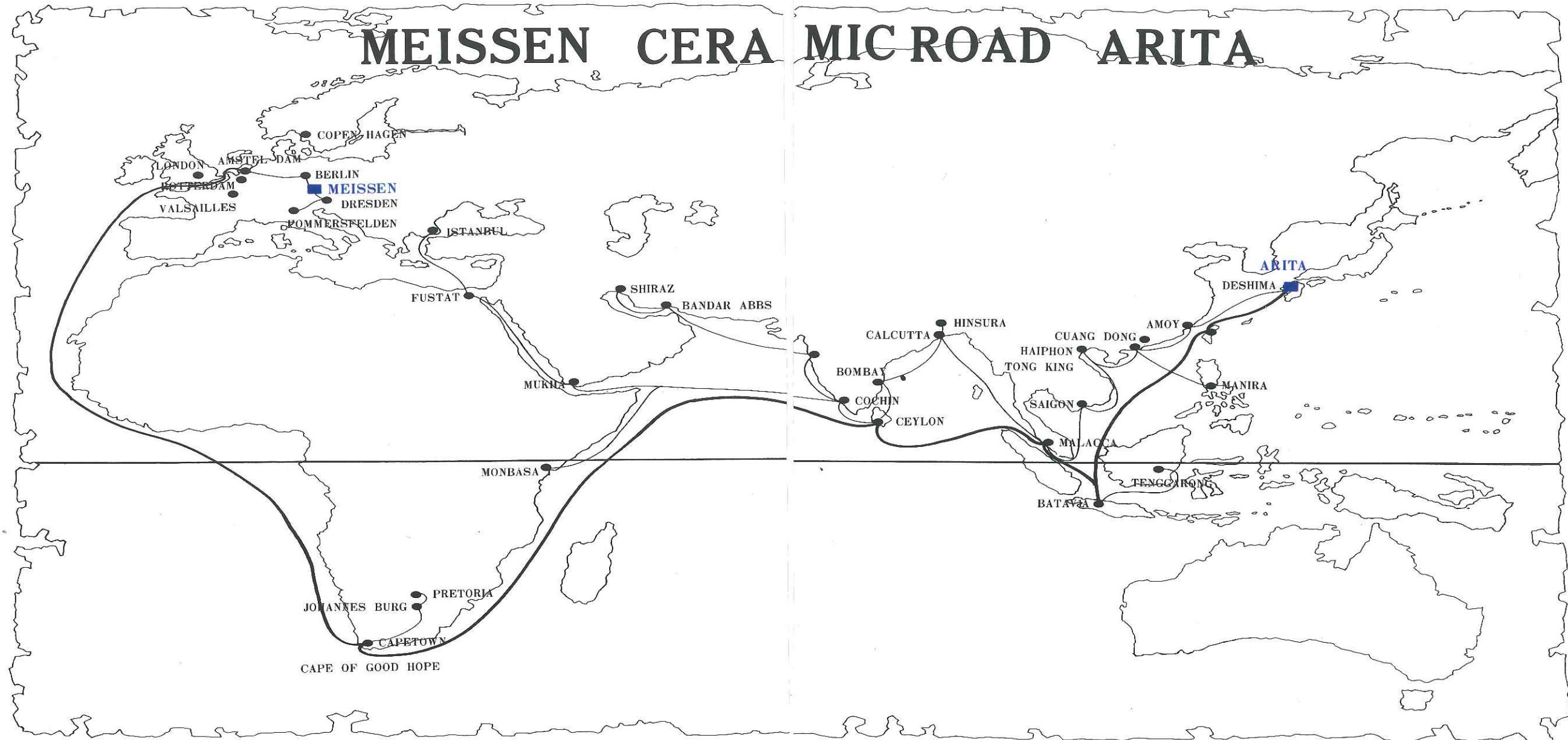
第二のステップは、西日本新聞社主催新幹線博多乗り入れ記念福岡大博覧会（1975年3月～9月）の目玉となつた、ドレスデンの古伊万里帰り展である。1974年8月ドイツ民主共和国の国立ドレスデン博物館が秘蔵する古伊万里の里帰り展の出品交渉団に託して、町長名（青木類次）でマイセン市との姉妹都市提携を申し入れる。この頃すでに、鍋島直紹参議院議員が将来の展開を予見されて東独政府の首脳部と折衝を開始されておられたことは記憶にとどめておかなければならない。この申し入れに対し来日したドレスデン州社会主義統一党第一書記で独・日友好議員連盟会長のハンス・モードロウ氏より、有田町との姉妹都市の受け入れ体制が出来たと参議院議員日本・東独友好議員連盟の鍋島直紹議員（佐賀県選出・没S56年）につたえた。これを受け1978年夏、鍋島議員から『姉妹都市提携調印の目処はついた』との吉報があった。

町長は町議会の了解を得て、1979年2月9日、東京都千代田区紀尾井町4ホテル・ニューオータニ本館16階紫雲の間において、マイセン市議会議員で国立マイセン陶工所総裁（カール・ピーターマン）と有田町長の間で姉妹都市協定書に調印を行った。

提携年月日及びその根拠

1979年2月9日 友好協力に関する姉妹都市協定

マイセンまでの長い道のり



有田の紹介

本町は、佐賀県の西部に位置し、東に杵島郡山内町、北西に西松浦郡西有田町南は長崎県東彼杵郡波佐見町に隣接する、人口14,473人（昭和60年国勢調査）、面積26.74 km²で、うち平地は約3割で、他はほとんど山岳が多く、これらの山々から端を発している有田川は本町の中央を走り西有田町を通って伊万里湾にそいでいます。又山地は石英粗面岩質の所がおおく石が風化されて随所に奇岩、怪石となっています。古くから陶磁器の町として有名で、現在もこれが主産業となっています。又単に伝統的な陶磁器生産だけに依存することなくその伝統を継承しながら、ニューセラミックスへの胎動など新しい時代の焼物のメッカをめざしています。

マイセンの紹介

マイセン市は、ドイツ民主共和国リソより南へ約140kmの距離にあり、歴史的価値のあるザクセン地方有数の古都です。美しい町です。マイセン市は、磁器の生産地であり、これは、欧洲磁器のはじまりとされています。

有田焼におくれること、約100年
は、歐州高級磁器の代名詞ともなっ

(DDR) の南部に位置し、首都ベルクです。人口およそ38,000人、10世紀に町そのものが中世の博物館といってもを名高くしているものに、マイセン磁器であり、ドイツ民主共和国が誇る

1710年に始められていますが、いまで
ています。

マイセンへの道のり

佐賀県有田町より西へ、約11,000km。アンカレッジ経由の空の旅で約8時間。そこにドイツ民主共和国があります。

ドイツ民主共和国の西南、ドレスデン県にマイセン市はあります。北緯1度2分、東経13度5分に位置します。

時差になると8時間。マイセンで午前10時の時、有田町では午後6時になります。

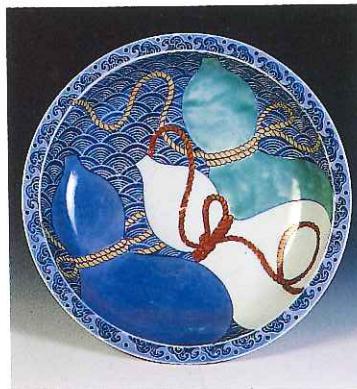
有田焼とマイセン焼

有田焼

17世紀の初頭に、有田の泉山で良質の陶石が発見され、日本で最初の磁器が生産されるようになります。当初は染付の作品が主ですが、1640年代には色絵の作品も始まり、特産品として国内に広く流通しました。また、17世紀後半になると輸出も始まり、東南アジアやヨーロッパへ多くの有田焼がもたらされています。有田焼の歴史は、今日まで300余年とだえることなく続き、伝統が守られると同時にファインセラミックスなど、新しい分野も開拓されています。



ARITA



色絵三瓢文皿
18世紀
鍋島焼・鍋島藩窯
佐賀県立九州陶磁文化館蔵



色絵花鳥文皿
17世紀末
柿右衛門様式
佐賀県立九州陶磁文化館蔵



染付芙蓉手花鳥図皿
17世紀後半
佐賀県立九州陶磁文化館蔵



MEISSEN



色絵双鶴文輪花皿
1725-30年
ドレスデン国立美術館



色絵美の三女神像
1784年頃
J.G. ユッフツェル作
マイセン国立製陶所・陶磁器美術館



色絵人物図に瑠璃地金彩花唐草文クラテール形双耳瓶
1865年
E.A. ロイテリック作

マイセン焼

ヨーロッパで一番最初に磁器がつくられたのは、マイセンです。

1708年にベッドガーが、マイセンのアルブレヒト城での実験に成功し、1710年には磁器製作所が開設されました。

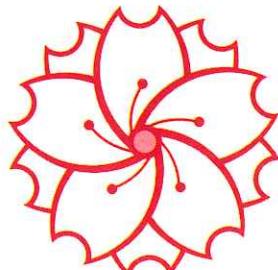
当初は、文様のない白磁が主でしたが、数年後には染付や色絵の作品も作られるようになります。ヨーロッパでは、18世紀後半になると、各地で磁器生産が始まりますが、マイセン焼はその中で技法的にも、芸術的にも高い評価を受け、今日に至っています。

有田とマイセンの交流

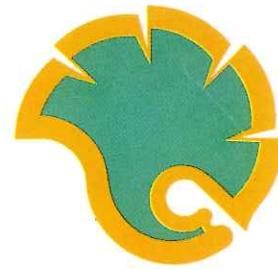
姉妹都市交渉経過

- 1978年 6月 先進『姉妹都市提携市町』調査
- 8月12日 於 有田商工会議所
鍋島直紹先生（参議院議員）を迎えて、町・議会・商工業界代表並びにドレスデン調査団（深川正他6名）等45名参加し、マイセンとの姉妹都市提携の交渉の前進を確認、鍋島直紹先生に全面依頼を決定する。
- 8月18日 於 有田商工会議所
町議会全員協議会に於いて、マイセンとの姉妹都市盟約の締結について、先方の応諾を期待すべく鍋島直紹先生を通して、DDR大使館に働きかけることを全員賛同
- 8月22日 鍋島直紹先生に、DDR大使館への折衝方を町長から依頼文をだす。
- 10月18日 町長、議長、商工会議所会頭、鍋島先生の連絡を受け、DDR大使館へ。
- 1979年 2月 5日 有田町都市提携委員会の設立
町の木、町の花の制定
- 2月 9日 有田町・マイセン市との間の友好協力に関する姉妹都市協定調印

町花・町木の制定



町花 さくら



町木 いちょう

有田町とマイセン市交流の推進体制

姉妹都市提携に基づく各種の活動の推進母体となる有田町都市提携委員会（昭和54年2月5日設立）は、町長を委員長、町議会議長及び商工会議所会頭を副委員長とし陶磁器業界関係者各種団体関係者、議会関係者等により構成されており、その構成メンバーは次のとおりである。

委員長 有田町長
副委員長 有田町議会議長・有田商工会議所会頭
委 員 佐賀県議会議員・県窯業試験場長・県立九州陶磁文化館館長・県立有田窯業大学校長・
有田警察署長・有田町議会副議長・町議会総務常任委員長・町議会産業建設常任委員長・
町議会文教厚生常任委員長・有田町教育委員会委員長・有田陶磁美術館運営委員長・区長会長・有田町婦人会長・有田町収入役・有田磁石組合管理者・有田焼直売場理事長・
有田町農業組合組長・佐賀県陶磁器卸商業組理事長・佐賀県陶磁器工業組理事長・佐賀県陶磁器錦付組理事長・大有田焼振興組理事長・肥前陶磁器商工組理事長・有田商工会議所専務理事・有田金融協会会长・有田建設組合長・
有田商店連盟会長・有田地区労福協議会会長・有田陶芸協会会長・伊万里有田焼伝統工芸士会長・有田ロータリークラブ会長・肥前有田ライオンズクラブ会長・陶都有田青年会議所理事長・有田物産株社長・(株)今右エ門窯社長・岩尾磁器工業株社長・(株)柿右エ門窯社長・
柿源右エ門窯社長・(株)香蘭社社長・西松浦通運株社長・深川製磁株社長



盟 約 書 (共同声明)

有田町（日本国）とマイセン市（ドイツ民主共和国）との間の友好協力に関する姉妹都市協定

- I. 第一条 有田町及びマイセン市は、日本国とドイツ民主共和国との関係の緊密化に貢献することを希望して友好協力関係を結ぶことに合意した。
有田町とマイセン市は、姉妹都市関係の樹立が有田町とマイセン市との間の、また両国民間の友好を促進し、緊密化するとともに、平和と国際理解にとって意義ある貢献であるとの確信を表明する。
- II. 第二条 双方は、体制を異にする国家間の協調的関係と友好的協力関係の発展のために尽力するとの固い決意とともに、平和の確立、緊張緩和の緊密化及び軍縮に寄与する活動を支持するとの固い決意を表明する。

双方はこのような意思に基づいて、双方の都市における政治的、経済的、社会的及び文化的生活の発展に関する情報の交換に合意し、地方自治体の分野における地方機関の活動に関する経験の交流を行う。

双方はその市民に対し、相手都市の生活と発展について、適切な方法により周知させる。

これは、両国における友好運動の一部であり、その活動を促進するものである。

III. 第三条 この姉妹都市協定は、相互の一致により作業計画において確定される具体的措置によって補完される。

IV. 第四条 友好協力に関する姉妹都市協定は、署名により効力を生ずる。

等しく正文である日本語とドイツ語により、本書二通を作成した。

Partnerschaftsvereinbarung

über Freundschaft und Zusammenarbeit zwischen dem Rat der Stadt Meissen (Deutsche Demokratische Republik) und dem Stadtrat von Arita (Japan)

I. Deleitet von dem Wunsche, zur Vertiefung der Beziehungen zwischen der Deutschen Demokratischen Republik und Japan beizutragen, sind der Rat der Stadt Meissen und der Stadtrat von Arita übereingekommen, Beziehungen der Freundschaft und Zusammenarbeit herzustellen.

Der Rat der Stadt Meissen und der Stadtrat von Arita geben ihrer überzeugung Ausdruck, das die Aufnahme von Stadtpartnerschaftsbeziehungen die Freundschaft zwischen den Ataden Meisen und Arita sowie zwischen den Völkern beider Staaten fördern und vertiefen wird und ein wertvoller Beitrag für Frieden und Völkerverständigung ist.

II. Beide Seiten bekunden ihren festen Willen, für die Entwicklung einer freundschaftlichen Zusammenarbeit im Geiste der Prinzipien der friedlichen Koexistenz zu wirken und Aktivitäten, die der Festigung des Friedens, der Vertiefung des Entspannungsprozesses und der Abrüstung dienen, zu unterstützen.

Getragen von diesem Willen vereinbaren beide Seiten den Austausch von Informationen über die Entwicklung des politischen, wirtschaftlichen, sozialen und kulturellen Lebens in ihren Städten und tauschen Erfahrungen über die Tätigkeit der örtlichen Vertretungen im kommunalen Bereich aus. Beide Seiten werden ihre Bürger mit dem Leben und der Entwicklung ihrer Partnerstadt e in geeigneter Weise bekannt machen. Sie verstehen sich als Teil der Freundschaftsbewegungen in beiden Staaten und fördern deren Aktivitäten.

III. Im beiderseitigen Einvernehmen wird die Partnerschaftsvereinbarung durch konkrete Maßnahmen ergänzt, die in Arbeitsplänen festgelegt werden.

IV. Die Partnerschaftsvereinbarung über Freundschaft und Zusammenarbeit tritt mit innerer Unterzeichnung in Kraft.

Ausgefertigt in deutscher und japanischer Sprache, wobei beide Texte die gleiche Gültigkeit haben.

Tokio , den 09.02.1979

Für den Rat der Stadt Meissen

Für den Stadtrat von Arita

Bürgermeister

1979

昭和54年

- 2月11日 国立マイセン陶工所総裁
(カールピーターマン氏)
~12日 一行来有
- 24日 駐日DDRウルフガング・ミュンヒ代理大使夫妻・ライナーフューガー二等書記官夫人
来有
- 9月13日 マイセン市公式訪問
~26日 欧州三大窯業視察としてドレスデン、マイセン窯業視察と
友好訪問
(参議院議員鍋島直紹氏
一行39名)
- 18日 有田ロータリークラブ
マイセン市へ鯉のぼりセット
寄贈
- 18日 マイセン市へ小中高校生徒の
作品(図画50点)寄贈
マイセン市の児童・生徒の交
換作品展
- 11月1日 ~5日 有田町体育館ロビー



カール・ピーターマンマイセン国立陶工所総裁一行



マイセン市訪問団一行 ピルニツ宮殿にて

1980

昭和55年

- 5月13日 駐日DDR特命全権大使ホルスト・ブリー閣下夫妻来有
- 9月16日 国立マイセン陶工所絵付師
ハインツ・ウェルナー氏来有
- 10月8日 国立マイセン陶工所造形師
ルドヴィッヒ・ツェブナー氏
来有
- 31日 駐日DDR特命全権大使ホルスト・ブリー閣下と二等書記官
フェイバ氏来有



マイセン国立製陶所絵付師ハインツ・ウェルナー氏



13代柿右エ門氏とマイセン陶工所副総裁



DDRから贈られたマイセン磁器(人形と皿)



マイセン国立製陶所絵付師ストーレ氏と今右エ門氏

1981

昭和56年

- 5月15日 駐日DDR特命全権大使
ホルスト・ブリー閣下
ルツクライネルト書記官
来有
- 31日 国家評議会議長
エーリッヒホネカー閣下名誉
町民推戴式
賓客及び隨員84名来有
- 10月20日 国立マイセン陶工所副総裁
ラインハルド・フイヒテ氏
絵付師 ストーレ氏
ファルカス女史来有

1982

昭和57年

- 1月25日 ホルスト・ブリー大使夫妻
ライナー・フリューガー二等書記官来有
- 5月21日 DDR人民議会ハンス・モドロウ議員一行7名来有
- 22日 DDR窯業視察友好訪問
- ～31日 ドレスデン、マイセン
佐賀県知事 香月熊雄を団長として一行30名
- 8月1日 DDR文化省ゴールド・シュミット女史来有
- 10月3日 DDR日本友好連盟会長兼書記長フォルスト・プラッジ氏一行4名来有
- 14日～15日 駐日DDRホルスト・ブリー大使夫妻来有



ハンス・モドロウ議員一行来有



ハンス・モドロウ議員と深川正氏



有田磁石場にて



マイセンの森記念植樹



マイセンの森植樹の介ぞえ役をした有田町4区みどりの少年団



「マイセン磁器とドレスデンの古伊万里名品展」開会式

1983

昭和58年

- 1月13日 駐日DDR大使館文化担当官
ヴィルフィード・シュミット氏来有
- ～14日 県政100年記念事業『マイセン磁器とドレスデンの古伊万里名品展』出品交渉（町2人県2人）有田町助役一行DDRへ
- 3月20日～31日 県政100年記念事業『マイセン磁器とドレスデンの古伊万里名品展』の開催
県立九州陶磁文化館
- 9月24日～10月23日 県政100年記念事業『マイセン磁器とドレスデンの古伊万里名品展』の開催
県立九州陶磁文化館
- 9月24日 県政100年記念事業『マイセン磁器とドレスデンの古伊万里名品展』の開会式へDDR代表団来有
- 24日 姉妹都市記念事業『マイセンの森』記念植樹
樹木名 菩提樹 トリネコクス イチョウ シヤリンバイ ツツジ
- 10月22日～25日 有田ダム内 マイセンの森
ドレスデン国立美術館陶磁器美術館員フリードリッヒ・ライヘル氏『マイセン磁器とドレスデンの古伊万里名品展』の閉会式と出品物引き取りのため来有
- 27日 DDR日本文化学芸交流協会総裁カールハインツ・シュルマスター氏一行来有
- 27日～11月6日 県政100年記念事業『マイセン磁器とドレスデンの古伊万里名品展』終了報告と出品作品の返品のためDDRドレスデンとマイセン市を訪問
県立九州陶磁文化館副館長学芸員及び町教育長

1984

昭和59年

- 3月5日 国立マイセン陶工所
- ～6日 ハインツ・ウエルナー教授来有
- 24日 DDRノイエス・ドイツェ
ラント外交政策部長
ロルフ・ギュンター氏来有
『日本有田の陶芸並びに名窯
展』の打ち合わせの為DDR
へ
(株)香蘭社社長 深川正氏
町企画産業課長 中原隆氏
- 5月19日 ～28日 DDR国営旅行社ライゼビュ
ーローによる講演会の為ルッ
ツクライネルト参事官夫妻と
ライゼビューロー・クラウス
シュテフェン氏来有
国立マイセン陶工所総裁ライ
ンハルト・フィヒテ氏来有
DDRでの「有田展」の協議の
ため
- 10月17日
- 29日



マイセン市庁舎にて「有田展」の打合せ



有田ダムを散策する駐日DDR大使館参事官一行



「有田の森」で



「有田の森」鍋島先生の像の前で明子夫人と

1985

昭和60年

- 2月23日 データー・イエガー駐日DD
R大使一行来有
DDRでの有田展協議及びパ
ネル展・映画試写会へ
- 28日 DDR文化省国際局モニカ
ゴールドシュミット課長来有
DDRでの有田展協議
- 3月2日 有田展第1会場エアフルト市
(会期3月14日～5月14日)
へ出品物確認及び展示作業の
ため訪独



「有田展」エアフルト開会式でいさつする
佐賀県陶磁器工(協)理事長



マイセンにある「有田の森」

※注「有田展」=「日本有田の陶芸並びに名窯展」

九州陶磁器文化館学芸員
鈴田由紀夫氏

- 3月14日 DDRでの『有田展』開催
会場 エアフルト市美術工芸
博物館

- 3月12日 有田展第1会場エアフルト市
開会式へ出席
佐賀県代表

佐賀県出納長 古藤浩氏
有田町代表(業界代表)
佐賀県陶磁器工業協同組合
理事長 中島政司氏
随行 県教育庁文化課課長補佐
高島忠平氏

- 6月7日 『有田展』マイセン市アルブ
レヒト城で開催
4日 有田展マイセン会場へ

- ～28日 有田・マイセン姉妹都市佐
賀県有田町訪欧団として開
会式へ出席
- 佐賀県副知事 井本勇氏を団
長に有田町長ほか10名とツア
ー参加者

- 8月8日 『有田展』ベルリン市ケペニッ
ク宮殿美術工芸博物館で開催
8月4日 有田展ベルリン会場開会式へ
～16日 出席

佐賀県教育長 志岐常文氏を
団長に議会代表他2名とツア
ー参加者

- 10日 DDR国営テレビ放送記者
トマス・ギルバースタイ因
氏来有

- 9月28日 DDRマイセン陶工所総裁一行
来有
有田焼・マイセン焼ジョイン
ト展協議
鍋島先生のレリーフ頂く
マイセンの鐘届く

- 11月1日 マイセン市ヘツツジ、イチョ
ウ各30本計60本送る